

令和 7 年度

事業報告書

特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会

1. 事業の概況

特定非営利活動法人（7 生都管第 1100 号、令和 8 年 1 月 22 日更新）（以下、「当 NPO」と記す。）として、富士山測候所を学術や教育等の分野において有効に活用し、また、自立的かつ安全に測候所の維持管理が行える体制整備を行い、その成果を社会に還元するべく活動を行った。

2025 年の夏期観測は、7 月 1 日から 9 月 5 日まで 67 日間にわたり山頂観測を実施し、延べ 307 人が参加、荒天のため 4 件の中止はあったものの、28 件のプロジェクトを無事終了することができた。

寄付活動に法人全体で取り組み、その結果、各種企業から個人までのべ 145 件、合計 2,483,285 円の寄付を受領できた。また、2020 年度に行ったクラウドファンディングの支援者へのリターンについては、引き続き検討することとした。

当 NPO による研究活動の資金として、一般財団法人 WNI 気象文化創造センター、一般財団法人新技術振興渡辺記念会、公益財団法人ふじのくに未来財団、富士山後世継承事業費補助金等、多くの機関からの助成・補助等の支援を受けた。

1.1. 総合的運用事業

(1) インフラ関係

- 山頂までの送電系統にある 1 号柱から 73 号柱までの架空送電線等について、2025 年 4 月 14 日から 15 日に点検作業を実施した。また、4 月 17 日には、No.1 号柱キュービクル設備点検を実施した。
- 富士山頂庁舎及び各ハット設備及び送電線路設備点検については、6 月 16 日から 19 日に実施し、6 月 23 日に送電を開始した。
- 長田尾根の埋設ケーブルの点検補修を 2025 年 7 月 24 日、山頂班が行った。埋設ケーブルの点検補修については、関係省庁等との協議を引き続き検討することとしている。
- 太郎坊観測基地の整備を前年度に続き充実し、スターリンクの設置により、通信環境の向上を図り、通年観測の利用者増を図った。御殿場観測基地においても、基本インフラの整備、メンテナンス環境の構築を昨年度に引き続き行い、利用者の拡充を図った。

(2) 学術的・科学的事業

- 2025 年度はコロナ対策を引き続き実施し、昨年に続けて山頂における夏期観測を実施した。参加プロジェクトは、研究 21 件、活用 9 件、トライアル 2 件、合計 32 件、延参加者数は 307 人であった。コロナ発生前の件数・参加者数に戻りつつあり、盛況であった。

- 太郎坊・御殿場の両サイトにおいて、昨年に続き大学以外の企業グループ（青山シビルエンジニアリング）の参画が行われた。同社によって気象観測が実施され、安定した気象データの取得が行えるようになった。

(3) 環境教育事業

- 愛知県保険医協会から当 NPO に講演の依頼があり、2025 年 11 月 1 日に愛知県保険医協会伏見会議室にて「ここでしかできない研究がある：富士山測候所が地球環境に果たす役割」というタイトルで [REDACTED] が講演を行った。

1.2. 富士山環境研究センター運営事業

- 科学研究費補助金の申請機関として、富士山環境研究センターにおける研究活動の不正防止規程に基づき、体制整備等自己評価チェックリスト、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づく取組状況に係るチェックリストを文科省に提出するとともに、ホームページに不正行為に関する窓口を開設している。
- 富士山環境研究センターにおける研究活動の不正防止規程に規定する倫理委員会のメンバーとして、法律の知識を有する外部有識者として 2023 年 12 月 1 日付けで顧問弁護士を任命し、2025 年度も継続した。
- [REDACTED] の「電磁気学的データの高度情報処理を主とした富士山噴火予測精度向上の研究」が科研費の 2024 年度基盤研究（C）（一般）にセンターとして初めて採択され、令和 6 年度から 3 年間の研究を継続した。
- 研究センターメンバーは、総勢 10 名（うち、シニアリサーチフェロー 4 名、研究員 2 名、特任研究員 2 名を含む。）となり、原著論文数、学会発表数の増加がみられた。

1.3. 国際・国内シンポジウム開催事業

- 国内シンポジウム事業として、第 19 回成果報告会を 2026 年 3 月 22 日に早稲田大学西早稲田キャンパス（東京都新宿区）において、[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED] により、会場開催と Zoom によるハイブリッド形式で開催した。14 件の発表があり、約 60 名の聴講者があった。
- 第 19 回成果報告会講演予稿集を作成し、講演者、会員及び支援団体、報道機関等、約 300 名に郵送配布した。また、報道関係者を招聘した。

1.4. 出版情報発信等広報事業

- マスコミ等メディア（新聞、TV、ラジオ等）への露出回数は、約 30 件であった。特に [REDACTED] を中心とした、マイクロプラスチックに関する報道が注目されていた。[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED] による防災講座や地震・火山予知関係のニュースはブログなどでのアクセスが多かった。
- 一般市民を対象として会の活動状況を「わかりやすく」情報発信するため、資料の整備、ホームページの改善等を継続して実施した。また、SNS に関して、ブログ、インスタグラムに、2020 年

6月からX（旧ツイッター）を加え、ホームページへのアクセス数を増加させた。夏期2ヶ月間においては山頂からのライブカメラ配信をYoutube上で行い、合計2,900を超えるチャンネル登録者数を得た。また、2025年1月からのメールマガジンの発行を継続した。

- 「芙蓉日記の会」を広報活動の一環として、Zoom会議を併用し、歴史研究者、編集者、翻訳家など国内外の人文社会研究者も含めた活動範囲を広げた。特に野中家の資料の検討のみならず、測候所勤務者の記録などの収集にも努めた。また、東京理科大学野田キャンパスにおいて、『富士山観測』の巡回展が2025年10月24日から12月20日まで開催され、富士山測候所のジオラマ展示や資料提供等、全面的に協力した。

1.5. その他目的を達成するために必要な事業（事業運営基盤の整備等）

- 事業運営を支える資金については、一般財団法人WNI気象文化創造センター、一般財団法人新技術振興渡辺記念会、公益財団法人ふじのくに未来財団、富士山後世継承事業費補助金等、多くの機関からの助成・補助等の支援を受けた。
- 雇用形態の多様化に対応し、在宅勤務を可能とするテレワーク勤務規程に基づき、勤務の弾力化を図るため、テレワーク勤務体制の活用を進めた。
- 富士山特別地域気象観測所（旧測候所）第5期の借用契約を2023年9月6日に締結した。貸付期間は2023年9月11日から2028年9月10日である。なお、新たに庁舎に隣接する土地の一部（雪囲い内部）について、越冬用研究観測機材の設置が認められた。

(1) 特定非営利活動に係る事業

(1) 特定非営利活動に係る事業 (事業費の総費用【 39,391 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
1. 総合的運用事業	(1) インフラ関係						36,069
	イ. 架空送電線等の点検						
	①山頂までの1号柱から73号柱までの架空送電線等について、点検作業を実施	25/4/14～4/15	山頂までの1号柱から73号柱までの架空送電線等	数名	夏期観測参加者(研究者、事業者等)	約500名	
	②山頂庁舎電気設備及びハット送電線路定期点検	25/6/16～6/23					
	④長田尾根の埋設ケーブルの点検補修	25/7/24	長田尾根の埋設ケーブル	数名	山頂班		
	ロ. 富士山頂登山者への安全提供						
	静岡県の富士山後世継承事業費補助金を受領し、登山者への安全提供として、山頂・剣ヶ峰にて、①ライブカメラによる山頂気象情報の配信、②富士山測候所内のAED常設を行った。	25/7/1～25/9/5	山頂	10名	富士山登山者	不特定多数	
	(2) 科学的・学術的事業						
	イ. キックオフミーティング						
	関係者(観測参加者、山頂班及び事務局)を対象に、キックオフミーティングを実施し、安全ルール等について徹底を図った。	25/5/25	連合会館(ハイブリッド)	40名	夏期観測参加者(研究者、事業者等)	約200名	
ロ. 観測研究の実施支援							

① 富士山測候所の管理・運営：山頂班による庁舎内外の点検・維持管理、除雪作業等	25/6/18～9/5	富士山測候所	山頂班数名	夏期観測参加者（研究者、事業者等）	延 500 名
② 山頂観測：コロナ感染対策をしつつ夏期山頂観測を実施した。32 プロジェクトが観測を実施し、延 307 名が参加	25/7/2～9/2	富士山測候所	約 400 名	夏期観測参加者（研究者、事業者等）	延 500 名
③ 太郎坊基地における観測：太郎坊観測所を強化し 6 事業が観測を実施し、延 120 名が参加	7 月下旬から（一部、通年観測）	太郎坊観測所	約 120 名	夏期観測参加者（研究者、事業者等）	約 120 名
④ 御殿場基地における観測：御殿場基地を利用し、4 事業が観測を実施し、約 60 名が参加	8 月上旬から（一部、通年観測）	御殿場基地	約 60 名	夏期観測参加者（研究者、事業者等）	約 100 名
⑤ データ検討会：2025 年の山頂・太郎坊・御殿場基地の観測結果を中心にデータ検討会実施	25/12/13	会場及び Zoom ハイブリッド	30 名	夏期観測参加者（研究者、事業者等）	30 名
(3) 環境教育事業					
① 愛知県保険医協会からの依頼があり、「ここできできない研究がある：富士山測候所が地球環境に果たす役割」として ████████ が講演	25/11/1	愛知県保険医協会伏見会議室	30 名	一般・市民	不特定多数
② 富士吉田市富士山レーダードーム館リニューアルのためのコンテンツ提供および展示に継続して協力	通年	富士吉田市富士山レーダードーム館	数名	一般・市民	不特定多数
(4) 助成等による調査研究事業の実施					
① 助成事業「Clarification of Raindrop Composition Dynamics and Heavy	25/7/1～26/6/30	富士山測候所、太郎坊	数名	研究者・学生等	不特定多数

	Rainfall Mechanisms in the Asia-Pacific Region」(WNI 気象文化創造センター「気象文化大賞（アジア太平洋地域助成事業）」助成)を実施した。		観測所、御殿場基地及びカンボジア			
	② 助成事業「雲と雨を生む富士山の素顔:エアロゾルと降水の新たな関係」(WNI 気象文化創造センター「気象文化大賞」) 助成)を実施した。	25/7/1～26/6/30	富士山測候所、太郎坊観測所、及び御殿場基地	数名	研究者・学生等	不特定多数
	③ 助成事業「富士山山腹・太郎坊における通年環境科学モニタリング」(ふじのくに未来財団助成事業)を実施した。	要確認 24/09/01 から 25/8/30	太郎坊観測所及び御殿場基地	数名	研究者・学生等	不特定多数
2. 富士山環境研究センター事業	イ. 調査研究受託事業					
	の「電磁気学的データの高度情報処理を主とした富士山噴火予測精度向上の研究」が科研費の2024 年度基盤研究（C）（一般）にセンターとして初めて採択され、研究を継続した。	24/6/12～25/3/31	山頂、太郎坊基地、御殿場基地	数名	研究者・学生等	不特定多数
	ロ. 研究体制の充実					
	シニアリサーチフェロー2名、特任研究員1名が着任した。この結果、研究センターメンバーは、総勢10名（うち、シニアリサーチフェロー4名、研究員2名、特任研究員2名を含む。）となった。	通年	山頂、太郎坊基地、御殿場基地	10 名	研究者・学生	不特定多数

3,322

	原著論文数、学会発表数の増加がみられた。					
	八. 科研費の申請					
	2026 年度 基盤研究(C)（一般）に 1 件応募したが、不採択であった。今後も、申請を継続する。	通年	山頂、太郎坊、御殿場基地	10 名	研究者・学生	不特定多数
3. 国際・国内シンポジウム等開催事業	第 19 回成果報告会					
	オンラインによる成果報告会を実施した。メディア関係者を招聘した。	26/3/12	連合会館（会場及び Zoom によるハイブリッド形式）	60 名	研究者・学生	100 名
4. 出版・情報発信等広報事業	イ. HP による情報発信					
	①Instagramでの投稿を継続、②ブログ投稿を継続した。③X（旧ツイッター）による迅速な情報発信を行った。④メールマガジンを発行した。	通年	事務局	延 10 名	会員・一般	不特定多数
	ロ. 書籍、新聞、放送等による情報発信					
	メディア露出度を大幅に増大させた。	通年	各地	延 60 人	会員・一般	不特定多数
	ハ. 会報誌、パンフレット等出版物					
	①会報「芙蓉の新風」 Vol. 19 を発行した。 ②要覧 2025 を発行した。	26/1/1	事務局	10 名	会員・一般	不特定多数
	二. 講演・プレゼン等					
	① 講演 愛知県保険医協会「ここでしかできない研究がある：富士山測候所が地球環境に果たす役割」	25/11/1	愛知県保険医協会	数 10 名	一般	不特定多数

5. その他 目的を達成 するために 必要な事業	テレワーク勤務体制の活用						
	雇用形態の多様化に対応し、在宅勤務を可能とする テレワーク勤務規程に基づき、勤務の弾力化を図るため、テレワーク勤務体制の活用を進めた。	年間	東京事務所	2 名	NPO 職員	会員、 役員等	0

(2) その他の事業 実施なし

事業報告用

2024年度 活動計算書（その他事業がない場合）

特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会
(単位：円)

科 目		金 額	小計・合計
【A】 経 常 収 益			
1 受取会費			1,939,000
正会員受取会費		1,550,000	
賛助会員受取会費		389,000	
2 受取寄附金			2,483,285
受取寄附金		2,483,285	
施設等受入評価益			
3 受取助成金等			10,291,000
受取助成金		9,902,000	
受取補助金		389,000	
4 事業収益			56,913,718
事業収益		56,913,718	
5 その他の収益			90,759
受取利息		81,759	
雑収益		9,000	
経 常 収 益 計			71,717,762
【B】 経 常 費 用			
1 事業費			
(1) 人件費			10,440,535
給料手当			
役員報酬			
労務委託費		10,440,535	
福利厚生費			
(2) その他経費			29,332,546
業務委託費		595,000	
印刷製本費		99,170	
旅費交通費		2,447,132	
運搬費		13,183,699	
通信費		639,871	
消耗品費		1,175,028	
外注委託費		2,211,880	
し尿処理費		622,600	
水道光熱費		4,173,973	
送電線等保全費		1,666,500	
地代家賃		1,089,039	
賃借料		521,419	
減価償却費		382,144	
保険料		327,603	
諸会費		7,000	
雑費		190,488	
事業費計			39,773,081
2 管理費			
(1) 人件費			15,977,053
役員報酬			
給料手当		13,969,949	
法定福利費		916,629	
通勤費		1,090,475	
(2) その他経費			7,631,210
印刷製本費		39,480	

	旅費交通費	76,520	
	通信運搬費	516,650	
	消耗品 費	487,750	
	水道光熱費	220,916	
	地代家賃	1,800,000	
	賃借料	37,510	
	諸会費	0	
	租税公課	3,064,900	
	支払手数料	1,142,718	
	雑費	244,766	
	管理費計		23,608,263
経 常 費 用 計			63,381,344
当 期 経 常 増 減 額 【A】－【B】・・・①			8,336,418
【C】 経 常 外 収 益			
	固定資産売却益		
	過年度損益修正益		
経 常 外 収 益 計			0
【D】 経 常 外 費 用			
	修繕費積立金引当額	15,000,000	
	災害損失		
	過年度損益修正損		
経 常 外 費 用 計			15,000,000
当 期 経 常 外 増 減 額 【C】－【D】・・・②			△ 15,000,000
税 引 前 当 期 正 味 財 産 増 減 額 ①＋②・・・③			△ 6,663,582
	法人税、住民税及び事業税・・・④		141,000
	前期繰越正味財産額・・・⑤		44,137,718
次 期 繰 越 正 味 財 産 額 ③－④＋⑤			37,333,136

* その他の事業 実施なし

貸借対照表

(特非) 富士山測候所を活用する会
全事業所

[税込] (単位: 円)
令和8年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		預 り 金	147,789
小 口 現 金	121,759	仮 受 金	35,914
普 通 預 金	50,973,685	未払法人税等	141,000
現金・預金 計	51,095,444	未払消費税等	2,041,200
(売上債権)		流動負債合計	2,365,903
未 収 金	1,035,715	【固定負債】	
売上債権 計	1,035,715	修繕積立金	16,200,000
流動資産合計	52,131,159	固定負債合計	16,200,000
【固定資産】		負債合計	18,565,903
(有形固定資産)		正 味 財 産 の 部	
構 築 物	4,200,000	前期繰越正味財産	44,137,718
機械及び装置	1,895,000	当期正味財産増減額	△ 6,804,582
什器 備品	3,807,944	正味財産合計	37,333,136
器具 備品	799,040		
減価償却累計額	△ 7,576,120		
有形固定資産 計	3,125,864		
(投資その他の資産)			
差入保証金	42,016		
敷 金	600,000		
投資その他の資産 計	642,016		
固定資産合計	3,767,880		
資産合計	55,899,039	負債及び正味財産合計	55,899,039

財 産 目 録

(特非) 富士山測候所を活用する会
全事業所

[税込] (単位 : 円)
令和8年 3月31日 現在

《資産の部》			
【流動資産】			
(現金・預金)			
小口 現金	121,759		
普通 預金	50,973,685		
みずほ銀行	(48,631,807)		
三菱UFJ銀行	(68,652)		
ゆうちょ銀行	(811,035)		
ゆうちょ銀行/受払口	(1,462,191)		
現金・預金 計	51,095,444		
(売上債権)			
未 収 金	1,035,715		
売上債権 計	1,035,715		
流動資産合計		52,131,159	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
構 築 物	4,200,000		
機械及び装置	1,895,000		
什器 備品	3,807,944		
器具 備品	799,040		
減価償却累計額	△ 7,193,976		
有形固定資産 計	3,508,008		
(投資その他の資産)			
差入保証金	42,016		
敷 金	600,000		
投資その他の資産 計	642,016		
固定資産合計		4,150,024	
資産合計			56,281,183
《負債の部》			
【流動負債】			
預 り 金	147,789		
仮 受 金	35,914		
未払消費税等	△ 989,300		
流動負債合計		△ 805,597	
【固定負債】			
修繕積立金	16,200,000		
固定負債合計		16,200,000	
負債合計			15,394,403
正味財産			71,675,586
			37,333,136

計算書類の注記

1. 重要な会計方針

- 計算書類の作成は、一般会計基準 によっています。
- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法 無し
 - (2) 固定資産の減価償却の方法 定額法によっています。
 - (3) 引当金の計上基準
 - ・退職給付引当金
 - ・修繕積立金は収支状況に基づき、任意に引き当てをする。
 - (4) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理 無し
 - (5) 消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2. 事業別損益の状況

科目	総合運用事業	富士山環境研究センター事業	国際及び国内シンポジウム等開催事業	出版、情報発信等の広報事業	その他の事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益								
1. 受取会費	1,939,000						1,939,000	1,939,000
2. 受取寄附金	2,483,285					2,483,285		2,483,285
3. 受取助成金等	800,000	9,102,000				9,902,000		9,902,000
受取補助金	389,000					389,000		389,000
4. 賛助金						0		0
5. 事業収益	56,913,718					56,913,718		56,913,718
6. その他収益	90,759					90,759		90,759
経常収益計	62,615,762	9,102,000	0	0	0	69,778,762	1,939,000	71,717,762
II 経常費用								
1. 事業費								
(1) 人件費								
労務委託費	10,243,035	197,500				10,440,535		10,440,535
御殿場基地人件費	0	0				0		0
人件費 計	10,243,035	197,500	0	0	0	10,440,535	0	10,440,535
(2) その他経費								
総合運用事業費						0		0
受託事業原価						0		0
消耗品費	552,663	622,365				1,175,028		1,175,028
運搬費	12,667,741	515,958				13,183,699		13,183,699
通信費	378,135	261,736				639,871		639,871
外注委託費	1,717,000	1,089,880				2,806,880		2,806,880
印刷製本費	0	99,170				99,170		99,170
修繕費	0	0				0		0
し尿処理費	622,600	0				622,600		622,600
送電線等保全費	1,666,500	0				1,666,500		1,666,500
水道光熱費	4,173,973	0				4,173,973		4,173,973
賃借料	1,349,809	260,649				1,610,458		1,610,458
旅費交通費	2,193,373	253,759				2,447,132		2,447,132
減価償却費		0				382,144		382,144
傷害保険料	327,603	0				327,603		327,603
その他諸事業費	176,548	20,940				197,488		197,488
環境教育事業費	0	0				0		0
その他経費 計	25,825,945	3,124,457	0	0	0	29,332,546	0	29,332,546
事業費 計	36,068,980	3,321,957	0	0	0	39,773,081	0	39,773,081
2. 管理費								
(1) 人件費								
事務局人件費	0	0	0	0	0	0	15,977,053	15,977,053
(2) その他経費								
謝金						0		0
通信費						0	516,650	516,650
旅費交通費						0	76,520	76,520
荷造り運賃						0		0
水道光熱費						0	220,916	220,916
事務所家賃						0	1,800,000	1,800,000
賃借料							37,510	37,510
会議費						0		0
事務用消耗品費						0	487,750	487,750
備品消耗品費						0	0	0
修繕費								0
印刷費						30	39,480	39,510
損害保険料						0		0
新聞図書費								0
租税公課						0	3,064,900	3,064,900
諸会費						0		0
支払手数料						0	1,142,718	1,142,718
減価償却費						0		0
雑費							244,766	244,766
配分管理費						0		0
その他経費 計	0	0	0	0	0	30	7,631,210	7,631,240
管理費 計	0	0	0	0	0	30	23,608,263	23,608,293
経常費用計	36,068,980	3,321,957	0	0	0	39,773,111	23,608,263	63,381,374
当期経常増減額	26,546,782	5,780,043	0	0	0	30,005,651	-21,669,263	8,336,388

3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

(単位：円)

内容	金額	算定方法
無し		

4. 使途等が制約された寄附金等の内訳

使途等が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りです。

内容	期首残高	当期減少額	期末残高	備考
富士山後世継承事業費補助金	0		0	
合計	0	0	0	

5. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	期首帳簿価額	償却実施額	期末帳簿価額	
有形固定資産						
構築物	4,200,000	0	2,143,680	128,520	2,015,160	
機械装置	1,895,000	0	605,215	93,802	511,413	
総合運用事業用什器備品	3,295,304	0	18	10	8	
研究センター用什器備品	1,201,880	0	759,090	159,808	599,282	
管理用什器備品	109,800	0	5	4	1	
計	10,701,984	0	3,508,008	382,144	3,125,864	
無形固定資産						
.....			0	0	0	
投資その他の資産						
保証金	150,333		150,333		42,016	
敷金	830,000	-230,000			600,000	
計	980,333	-230,000	150,333	0	642,016	
合計	11,682,317	-230,000	150,333	382,144	3,767,880	

6. 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	期末残高	
無し	0	0	0	
合計	0	0	0	

7. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位：円)

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
(活動計算書)		
受取寄附金	2,483,285	
活動計算書計	2,483,285	0
(貸借対照表)		
前受金	0	0
貸借対照表計	0	0

8. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

- ・ 事業費と管理費の按分方法
無し
- ・ その他の事業に係る資産の状況
無し

年度年間役員名簿 （前事業年度において役員であったことがある全員の氏名及び住所又は居所並びにこれらの者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿）

特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会

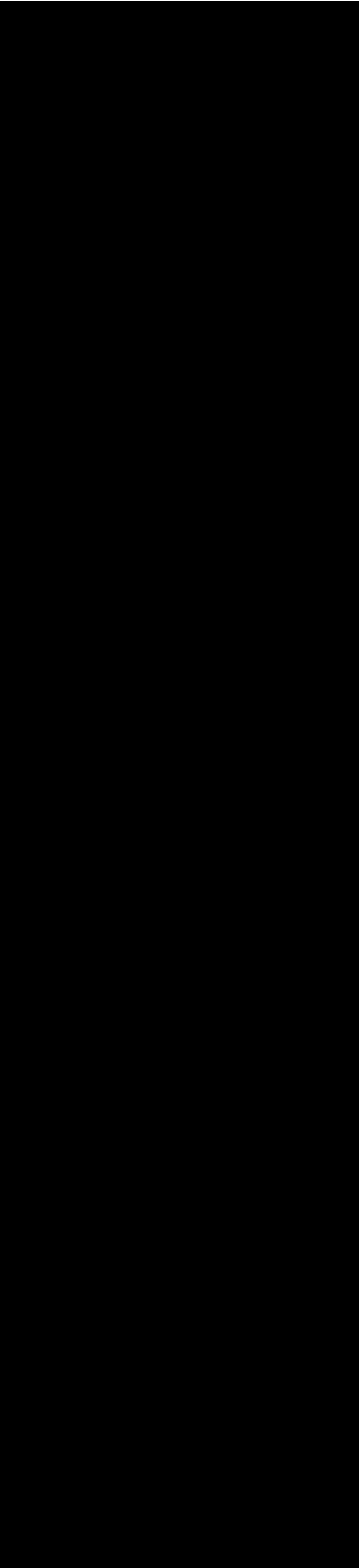
1 確認事項（法第20条及び第21条を確認の上、チェックを入れてください。）

- ☒ 以下の役員には、欠格事由者が含まれません。（法第20条関係）
- ☒ 各役員について、親族の規定に違反していません。（法第21条関係）

2 役員一覧

	役職名	(フリガナ)		前事業年度内の就任期間	報酬を受けた期間
		氏名			
1	理事	イデ リカ		令和7年4月1日から令和8年3月31日まで	報酬なし
		井出 里香			
2	理事	オオコウチ ヒロシ		令和7年4月1日から令和8年3月31日まで	報酬なし
		大河内 博			
3	理事	オノデラ ショウ		令和7年4月1日から令和8年3月31日まで	報酬なし
		小野寺 昇			
4	理事	カタヤマ ヨウコ		令和7年4月1日から令和8年3月31日まで	報酬なし
		片山 葉子			
5	理事	カトウ シュンゴ		令和7年4月1日から令和8年3月31日まで	報酬なし
		加藤 俊吾			
6	理事	カネヤス ナオキ		令和7年4月1日から令和8年3月31日まで	報酬なし
		兼保 直樹			
7	理事	カモガワ マサン		令和7年4月1日から令和8年3月31日まで	報酬なし
		鴨川 仁			
8	理事	コバヤシ ヒロシ		令和7年4月1日から令和8年3月31日まで	報酬なし
		小林 拓			
9	理事	サクライ ヨシユキ		令和7年4月1日から令和8年3月31日まで	報酬なし
		櫻井 芳之			
10	理事	ササキ カズヤ		令和7年4月1日から令和8年3月31日まで	報酬なし
		佐々木 一哉			
11	理事	タナカ フミオ		令和7年4月1日から令和8年3月31日まで	報酬なし
		田中 文男			
12	理事	タナカ ヨシロウ		令和7年4月1日から令和8年3月31日まで	報酬なし
		田中 義朗			

事業報告用

13	理事	ドキヤ ユキコ		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		土器屋 由紀子			
14	理事	ナガオ トシヤス		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		長尾 年恭			
15	理事	ナンザイ ベン		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		南齋 勉			
16	理事	ナンジョウカズヨシ		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		楠城 一嘉			
17	理事	ハタケヤマ シロウ		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		畠山 史郎			
18	理事	ハルナ カオル		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		春名 薫			
19	理事	ヒライ ノブユキ		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		平井 信行			
20	理事	ヒロセ カツミ		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		廣瀬 勝己			
21	理事	フジイ トシツグ		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		藤井 敏嗣			
22	理事	フルタ ユタカ		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		古田 豊			
23	理事	ミウラ カズヒコ		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		三浦 和彦			
24	理事	ミナミ ユキヤ		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		皆巳 幸也			
25	理事	ムラタ コウタロウ		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		村田 浩太郎			
26	理事	ヤマモト マサヨシ		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		山本 正嘉			
27	理事	ワダ リュウイチ		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		和田 龍一			
28	監事	イワサカ ヤスノブ		令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで	報酬なし
		岩坂 泰信			

社員名簿（社員のうち 1 0 人以上の者の名簿）

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

	氏 名	
1	井出 里香	
2	大河内 博	
3	小野寺 昇	
4	片山 葉子	
5	加藤 俊吾	
6	兼保 直樹	
7	鴨川 仁	
8	小林 拓	
9	櫻井 芳之	
10	佐々木 一哉	
11	田中 文男	
12	田中 義朗	
13	土器屋由紀子	
14	長尾 年恭	
15	南齋 勉	
16	楠城 一嘉	
17	畠山 史郎	